

第 1 1 回

東大和市社会教育委員会議 会議録

平成 3 1 年 3 月 1 9 日 (火)

平成30年度第11回 東大和市社会教育委員会議のまとめ

- 1 日 時： 平成31年3月19日（火）午前10時～
- 2 場 所： 市役所会議棟第4会議室
- 3 出席委員： 荒川 進、大月孝彦、杉本誠一、柳澤明、外池武嗣、森脇千春、金山幸子
（7人）
欠席委員： 松村正博、佐伯あつ子（2人）
- 4 事務局： 國森係長、手塚主事
- 5 内 容：
 - （1）議題
 - ① 研究テーマについて
 - （2）その他
- 6 公開・非公開： 公開
- 7 傍聴者数： なし

<会議内容>

○荒川議長 平成30年度第11回東大和市社会教育委員会議を開催いたします。よろしくお願ひします。議題に入る前にお手元の資料の確認をさせていただきます。事務局お願ひします。

○手塚主事 それでは資料の確認をさせていただきます。まず1枚目が本日の次第でございます。次に資料となっているものがホチキス止めのものがありまして、これが来月の都社連協の定期総会の開催通知でございます。後ほど出欠をお伺いさせていただければと思います。あと、もう1枚委任状がありまして、こちらは欠席される場合に出していただくものです。その他、配付資料といたしましては、「東京の地域教育135号」、「教育委員会だより81号」、「公民館だより第237号」、「東大和の青少年第42号」を配布しております。以上資料に漏れはございませんでしょうか。では、よろしくお願ひいたします。

○荒川議長 ありがとうございました。それでは次第に沿って進めたいと思います。研究テーマについてですけども、今日の準備を事務局で大分頑張って手配したりして、松村校長先生に学校の実情の話をしていただこうと、そういうことでかなり早くからお願ひをして、ご本人も出るつもりでいたのですが、何せ明日が中学校の卒業式なものですから、無理だろうなどは思っていましたけども、やはり都合がつかなくなりましたので、次回以降にお願ひしようと思います。教育委員会の施設関係については、前回お話しさせていただいておりますけども、指導関係がまた卒業式、入学式の関係があるということで、今回できませんでした。従って、学校関係は教育委員会と学校と両方について、次回以降にまたお話しをお伺いする機会を設けたいと、そんなことで今日に至っております。従って今日は、外部からの聞き取りはありません。よろしくお願ひいたします。そこで、今回、いい時期でもありますので、いろいろな機会によって勉強してきたわけですけども、今、あと何回かそういう機会が設けられればいいかなと思っておりますが、中間の意味で整理とか、まとめとか、そんなことをしたいと今日は思っております。よろしくお願ひいたします。

今、大きな流れではいいかなとは思っておりますけども、また皆さんのお考え等もお聞きして、落ちがあるとか、これはやはり参考に聞いておいたほうがいいのではないかなというのがあれば、最初にそこらへんから確認していきたいと思ひます。私が前回、前々回配った2月19日付の資料があれば、それを見させていただきたいと思ひます。2枚目です。勉強するための聞き取りのいろいろな機関を考えられる範囲で挙げてみたのですが、そこらへんのところで、これがないよというのがあれば、また改めて、相手のあることです。了解を取ればお願ひをして勉強すると、そんなことにしたいと思ひます。私のほうで整理をもう1回したいと思ひます。まず、関係機関組織などの聞き取り内容です。内容としては、主に子どもの交通安全、それから不審者や自然災害、それから虐待、いじめ、こんなところに絞って関係機関がどんな働きをしているか、そして社会教育として何か係わることがあるのではないかな、そんなことを明らかにしていこうということで、聞き取りをしているわけです。やはり基本になるのは家庭だと思ひますけども、家庭をどこから聞くというのもあり得ないと思ひるので、それは我々が代表する以外にないと思ひます。家庭・学校・通学路・防犯のルールのしつけをしたり、2人乗りとかというのが、初期の頃出ておりましたけど、自転車の2人乗りです。保護者の姿見ているのだと、子どもというのは、そういうことを誰が子どもたちに、そういう姿を見せたら駄目だよとか、そういうことを教えるのかとか、自分たちで守っていこうとか、そういうことを考える必要がありますけども、なかなかこの家庭に直接、働きかけをしたり、訴えかけたりするという機会は、案外ないのだろうと思ひます。一定の中でみんな学んだりするのでしょうか、そういうことに係わらない方もいっぱいいるので、やはり広報とか、機会の設定とか、そういうことは多分あまり言われてないけども、基本中の基本になるの

だろうと思います。まさに家庭がしっかりと子どもに向き合っていないと、いくら公の機関がやっても、それは根本が崩れていれば駄目だということで、社会教育の役割としては、家庭にいかに働きかけていくか、自発的に子どもの守りをするとか、そういう要するに社会の力、市民の力を育てるにはどうしたらいいかというのが、まず根本になるかと思っています。だから誰に聞くとかというものではないかなと思っています。

2番目は学校と、赤で書いてあるのはまだやっていないという意味を示していますけれども、これは、松村先生にお話を聞きながら、指導面についてです。授業はどんな指導しているの、交通安全とか、不審者、自然災害とか、虐待とかについて。授業、それからセーフティ教室は、子ども向けもあるし、親向けもあるし。自転車免許証発行していますとか、これは小学校です。通学路点検していますと、これも学校とPTAでやっていると思います。安全マップとか、不審者情報の伝達、いじめの防止の取り組み、事後対応もあるのでしょうか。虐待対応というのも、多分大事になってくるのです。子どもの体をさりげなく、いつも見ていますというのが大事ですし、養護教諭などだと多少腕まくったり位まではできますよね。一般の担任がなかなか女の子の背中見せろというのも難しい、これ養護教諭の出番になるのでしょうか。そういうふうにして、虐待が未然に防止するための働きかけ、教育というか、対応です。しているかとか、啓発、見守りネット。これをもしかしたら学校に行ってしまうと、訪問研修というのは学校へ行ってこういうことを聞かせてくださいということになれば、校長先生のお話のほかには、養護教諭の先生方にも直接聞くことができます。ここに来ていただくと、養護教諭の先生は長く学校空けるわけにはいきませんので、養護教諭の先生も入ったほうがいいのか、とにかく学校行ってしまうほうがいいのかと思っています。教育総務課は施設の面で話をさせていただきました。それから市としては下校放送、これも話がありました。子ども110番の家。警察と児童虐待の情報の共有協定はどうなっているのか、わかりませんが。そういうのを結ぶようです、市と警察で。これは青少年課が詳しく話をいただきました。それから市教委としては、指導の実態ということで、スクールメールとか、いろいろあるようですが、通学路の指定はどうなっているのか。通行許可証というのは、車に対して住民だけがいいというのが多分出ているのですが、そこらへんはどうなっているのか。虐待対応も、教育委員会としてどういう指導を学校にしているのか。いじめ防止のシンポジウムをやったり、これから虐待防止ということにもなるのでしょうか。電話相談等もありますけれども、そこらへんのところが改めて聞いてみたいということになります。警察の、案外聞きづらいもので、パトロールは警察はどんな体制でやっているのですかとか、交通安全教室も警察は学校と一緒にやっていますから、これはわかり見えます。不審者情報の扱い、いじめ、虐待の連携。実際これよくわからないですけど、警察がどういうふうにするのか。それから交通安全協会、防犯協会、パトロールとか、見かけたらすぐ関係部署に連絡をしてくれているわけですが、なかなか聞けないという部分もあるのでしょうか。そういうことが、そういう組織があるということだけは押さえておくということで。それからPTAです。これも大きな役割を果たしています。パトロールしてくれているPTAもあるでしょうし、交通安全で朝立って旗振っている方もいらっしゃいます。通学路の保護者で合同点検とか、安全マップ作りを学校と一緒にやるとか、PTA独自でやっているとか、いじめ虐待対応をどうしているのか、これわかりませんが、PTAがどういうふうになっているのか。気づいたら学校に連絡する位のことはやっているのでしょうか。子ども虐待防止、オレンジリボン運動なんていうのもやっているところもあるようです。PTAどうなっていますかということも、学校を通して聞か、PTAに直接は聞いていないわけですが。それから学童交通擁護ボランティア。通学路の見守り。いじめ虐待対応。これも純粋なボランティアなのか、学校から委嘱みたいな形を取っているのか、よくわからないですけど。松村先生に聞いて

てみればいいことだと思います。スクールガード、学校安全ボランティア、通学路見守り、これ青少年課が対応、担当しているというのでしょうか。ただ実態はどうなっているのかよくわかりません。それから一般地域住民が交通安全、これも含めてお散歩時間を子どもの登下校に合わせてやりましょうとか、犬の散歩も時間に合わせてやりましょうとか、いじめとか、虐待、地域の中で気づいたことがあったら、どこにどういうふうに連絡するのか。虐待なども通報は仕方も難しいですね。いつも泣き声が聞こえますとか、子どもの家に入る時間がいつも暗いのですよ、外に暗くなってもいるのですよというようなものは、どこにどういうふうにどのような方法で伝えるか、結構難しい。そこらへんのところを広報で技術的な面までやらなければいけないのだろうなと思います。都では、お節介計画とかというのがあるそうです。そういうのを参考にして、こんな呼びかけが必要でしょう。声かけの仕方も、これ結構やっかいですよね。そういう方法論まで、こうやって地域の住民にも協力を呼びかけると。その次は自治会で、やはりこれは地域作りが交通安全とか、虐待対応には必ず出てくるはずなのです。ただ、これだってそうそうお節介と言いながらも、そのお節介の程度問題がやはり難しい。しかし、組織がなければやはり子どもも守れないということで、自治会の活性化というか、充実を呼びかけていく必要があります。幼稚園、保育所も幼児の場合ですと、当然学校ではなくて、幼稚園、保育所が預かるわけですから、どうするのか、学童クラブもどうするのか、児童館はどうするのか、これ青少年課からお話しただきました。それから、家庭教育、学校教育を支える企業の役割というのがあります。セブンイレブンとかに、子どもたちが飛び込んでいける、子ども110番という、普通の民家に飛び込んでもいいけど、いるかいないかわからないわけですから、するとセブンイレブンみたいなコンビニにあのポスターが貼ってあるかというのと、よくわかりません。ああいうところのほうがかえって助けてもらうのには、現実的だと思います。どなたかがいればいいけど、いなかったら飛び込んだところで、鍵が掛かっていたらどうしようもない。そういう組織整備とか、掲示物とか、そこらへんのところを青少年課からも話していただきましたけど、きちんとしておかないと、いざとなったら役に立たないとか、組織は手入れをしなければ劣化するということもあります。それから、民生委員、児童委員は手つかずです。これも組織を挙げているいろいろな活動をしています。人権擁護委員も手つかずです。児童相談所は、今忙しくて相手がとても我々の相手をしてくれる余裕がないと、これもやむを得ない。あまりにも大変な時期になって、本当は行って、相談をどんなふうに行っているのかというのを具体的なノウハウを教えてくださいんですけども、時期が悪いから訪問研修は難しいと思います。社会福祉協議会、子育て支援課からも話を聞きました。こんな活動をしていますということも聞きました。大体これで網羅したかなと思うのですが、ほかにこんなものがあるよというところがありましたら、出していただければありがたいと思います。まだ、時間がありますので、お願いできることはしていきたいと思います。とりあえず以上です。ここはどうかっていうものありますか。どうですか。特にないですか。

○杉本委員 そうですね、あえて言えば、今議長がおっしゃっていただいたのが、大体それで網羅されていると思うのですが、1つ聞いていて、皆さんご存じかもしれませんが、学校の校風というか、全校で、例えば子どもから通りですれ違う親子が、他人です。子どもから例えば挨拶の声掛けをするなど教えているのか、あるいは積極的にしなさいと教えているのか。そのへんがやはり挨拶の声掛けを、これが1番最初の入り口だと思いますので、その点、例えば親というか、大人側から、何かこちらから声を掛けるといのが何か抵抗があるのです。ひょっとして、そういうのには向けるなど、話を聞くなと、言われているかもしれない。だから、逆に子どもからおはようございますとか、下校時でもこんにちはとか、そういう形の積極的に大きい声で声掛けをしてもいいと、そういうことを教えられているのかどうか、そのへんのことわからないので、できればそういう方向にもっていったらいいなという

のが1つ。それとあと、議長先ほどおっしゃいましたけど、我々もここで会議という形でやっていますが、できれば、やはり学校へ実際に行ってみたら、あるいはこのポイント危ないなという場所を実際に我々が歩いてみるとか、そういう外での我々の活動というものがあってもいいかなというふうに、この2つの点を感じました。

○荒川議長 今、迂闊に声掛けると変に思われるというのが、逆にあるのです。

○杉本委員 我々側には、そういう気持ちがあるのは、僕自身にはあるのです。変に声掛けると変なおっさんだなというふうに思われる。そういうふうな学校で教育されているのであれば、逆に声掛けると逃げてしまうということもありますので、逆に子どものほうから本当を言えば、声掛けしてもらえればなど。

○荒川議長 そういう教育をしているかどうかね。

○杉本委員 そうですね。そのへんが不明なものですから。やはり全ては関係を持つきっかけというのは、まず挨拶から始まるのです。それが第一歩だと思いますので、せめて挨拶位から、まずどうなっているのかなと知りたい。

○金山委員 市長さんが挨拶運動というので、最初に言われて、市長さんがあれを広められて、職員にも挨拶しなさいとそれが広まったので、私、第六小学校しか知りませんが、第六小学校では挨拶運動というので、学校でそれをやっているのです。毎朝、校長先生が廊下のところで、当番も決めて班を決めて、何人かと一緒に挨拶をする。私は校門のところでスクールガードでやっていますが、学校に入ったところの廊下で子どもたちがやっているのです、先生と。そういう当番制にして挨拶運動という組織の、そういう何かやっています。

○杉本委員 通学路でもそれをやはりやっているのですね。

○金山委員 そういうのが、それと給食もそうなのです、学校給食を食べないで残す人が多いからというので、ペロリ賞というそういう賞を作って、残したものを計算して、賞をあげて、これでよくなった。だんだんそれが両方ともですけど、良くなってきているのです。それが5、6年程前から、前の校長の時から、そういうのをきちんと入れてやって、学校自体で、六小ではやっているのです。

○荒川議長 学校の大体、校門に集まる道路があるではないですか。そうするとのぼりなんか結構立っていますよね。ここは挨拶通りですか、六小挨拶通りなどかかっていますよ。結構ずっとのぼり立てて。問題は子どもたちが挨拶しているようには見えない。だから今の話で、迂闊に声掛けたり、挨拶したりするなど言っているのか、積極的に。

○金山委員 やはり学校へ行ってみないことにはわからないですよ、どういうことやっているか。

○杉本委員 あるいは、例えば校長会なり、そういうところで、市としてはそういうことを何か指導なさっているのかですかね。そのへん詳しくわからない。

○金山委員 だから六小の自分たちの教室の入るところのドアの横に、挨拶運動、挨拶しましょうとか、やはり書いてある、きちんと。

○荒川議長 校内では絶対指導しているのです。問題は校門出たから。

○金山委員 それはわからない。

○杉本委員 そういうことは帰り道とか、特に朝は学校へ向かって行きますから、ほかに目標がないですから、子どもにしても散漫にならずに、そこに集中していますから。どっちかと言えば、やはり大事なものは出たから。学校が終わって、学校を出て家に向かう、その途中が1番危険性から言えば危ないのです。だからその時に積極的に当然あちらこちらに大人いますから、その大人に向かってこんにちはだけでも言っているかどうか。案外そういうことを、言っただけでいいと言っているのか。積極的に言いなさいと言っているのか。あるいは、何も言っていないのか。そのへんがわからないのです。

○荒川議長 学校などでも難しいのです、実際問題。大人が来たら挨拶するのですよと言って、こんにちはと言うと、うんちよっと聞きたいんだけどという場合があって、あんまりとっかかり作ってしまうと、変なやつもいますから。

○外池委員 ちょっといいですか。

○荒川議長 どうぞ。

○外池委員 私1番大事なのは危険を察知する力、ですから人によると思うのですけどね。何かこの人危険だなと。側に近づいて何となくこういう変な、変質的な質問をしたりする人もなきにしもあらずでしょう。ですから中の人たちは大丈夫だけでも、外へ出たらやはり防衛かな、身構えする。そここのところが大事だと思うのです。知らない人に声を掛けられたって、すぐ逃げるような感じの体勢を作るとか、画的にはやはり行かないのではないかと思います。ですから顔なじみで、あるいは関係あるかなという人には挨拶はいいと思うのですけど。やはり相手を見るということではないかなと思いますけど。

○杉本委員 通りすがりとかそういう人はわかりませんから。せめて立ち止まって世間話をしているおじさん、おばさんとか、そういう人に声をかけると。察知能力というのは、個人差ありますから、小学校低学年から高学年まで、やはりそれによって違いますから。一概にそれを学校で指導するのは難しいですかね。統一した指導は難しいです。でも声掛け、つまり子どもが声掛けてきて、それをきっかけに何か発展してしまうという恐れもありますし、悪いほうに発展するかも。

○荒川議長 危険察知をする力がないので、変なやつに近づいたら危ないです。要するに毎朝、旗振りしている人など、ベストなど着用しているでしょう。ああいう人は、まず大丈夫です。そうすると普段、日常的にあれ着ているわけではないから街の人が、何らかのバッチみたいなものつけていると、子どもはまず安心と思って挨拶する。バッチつけて挨拶しましょうも言える。その位の要するに危険人物ではない印位付けないと今は危ない。10小支える地域の会とか、なにかないと今の時代怪しいものね。そういう工夫が必要というのはどうですか。ベスト着てれば、まず安心でしょう。

○森脇委員 でも事件がありましたよね。保護者会の会長が。ああいうのがあったと本当に怖いと思います。

○杉本委員 あそこまでいってしまうと何も信用できませんから。

○大月副議長 今の子どもは、顔見知りではないと声掛けても返事来ないと思います。私も二小の評議委員やっているので、出入りしたりして、顔見知りの子は、自分からただいまとか、あるいはこちらから声をかけたときに、お帰りなさいと言ったら、ただいまとか声掛けますけど、同じ出入りしていても知らなければ、私の顔を知らなければ、お帰りと言っても何も返事来ないです。それでいいと思っています。二小の場合は、何10年も標語を作って、それを各いろいろな自治会のポスターで作ったものを掲示板に貼ったりしています。私の自治会はちょうど通学路のところに集会場の南街地区の集会事務委員会がありまして、その金網のところに市に申請して、毎年申請の届けを出すのですけど、そこに標語を貼れるように自治会の掲示板を、ポスターが貼れるような大きさのものを掲げてあります。何10年もそういう標語でやっていると、子どもは、この間も会議の中で言ったのですけど、お題目だけ並べであるとだんだんマンネリ化になってしまうのです。だからもう少しそこにイラストを入れて、子どもが興味を引くような形に改めたらどうかと提案を出したのですけど、まだ今回貼ったもの直っていないのですけど。それはそれですごく大事なことだと思います。学校へ入っていったときは、会ったときはみんなこんにちはとか声掛けてきますよ、二小は。外では、それは向こうからはよっぽどでない、顔見知りではないと言ってこないのですけど。いろいろなカレーパーティーなどを年に1回青少対でやるのですけど、その時に顔馴染みになった子は、必ず声が掛かります。あの時カレーやってくれたおじさんだ

というので声を掛けてきます。そうではないと、いくら学校出入りしていても、むこうからはよっぽどではないと言ってくれないです。

○荒川議長 そうするとベスト着ていたって危ないし、バッチ位では余計危ないし、顔見知りですよ、要するに。顔見知りになると、それは単に出入りしているのではなくて、なんらかの子どもとの接点の中で顔を知ってもらおうという活動は大事ですよということですよ。

○金山委員 でも子どもは、私たちみたいに自治会の会長さんやってカレーライスของそういうので接して知っているけども、親は知らないでしょう。親はあまり知らない。そうすると子どもさんと親が、私などが街歩いでいて、子どもが朝のおはようのおばさんだと言ってくても、お母さんは知らんぷりでしょう。だから挨拶しないでしょう、親は。子どもは親に言っているけども、親はあまり反応がないでしょう。だからそういうのは、親のほうで私もそういうときは、毎朝学校にいる、前にいる校門前にいる金山ですとお母さんに言うのですが、知らないですものね、ほとんど、お母さんは。東門しか知らないから、西門とか、あちらの人は知らないし、だから接点はあまりない。親のほうにないです。子どもは毎朝挨拶運動をしてくれているおばさんだと紹介するのだけど、街で会ってもね。

○荒川議長 それをだから子どもは毎日接触している、守ってもらっているからですけど、親は知らない。それを知らせるといいうことが必要になるわけです。

○金山委員 そうですよ。

○荒川議長 学校とか、学校レベルでしょうね。いつも校門立っている金山委員さんですよというのを常時流してもらわなければいけない。

○金山委員 何かでPTAとかで、学校だよりだとかに載せてもらってしない限りは、だからいまだに怖いおばさんとか、おじさんだから、あまりそういう挨拶したらいけないよとか、しゃべったらいけないよとかと言っているわけでしょう。

○荒川議長 大事なポイントなんです。学校自体だって知らない場合だってあるのですから、いつもやってくれている人はいるけども、接点はほとんどない。今のように親は知らないのだから、学校も流してくださいよねという指導をして、そうすると親も知っている、子どもはもう知っている。そういう積み上げがなければ挨拶などできないし、とっかかりができないのではないですか。社会教育的な発想としたら、それは大事ではないですか。両方必要。学校も努力しなければ駄目。

○金山委員 だから学校と家庭との連携とよく言われているけども、なかなかそこまで入っていけないのではないのか、そういう細かいところまで、学校は。だからPTAももう少しやらなければいけないのかなと思ったり、PTAでも。

○荒川議長 卒業式などでは、スクールガードの方、1番前に座らせていますものね、学校今は。あれいいことなのです。それはだから日常的に学期に1回位は流すと、命を守ってくれているのですよ。

○金山委員 だからそうだね。親が無関心なんだよね、そういうことに、子どもより。そういうことに関しては。

○杉本委員 家の中でもそういう話がないのでしょうか。

○金山委員 ないのよね。

○杉本委員 僕の経験で、毎年7月と8月の夏場ですけど、小学校のプール授業というのがあります。その補助指導員でずっと詰めるのです。今は家が近いから五小に行っても1年間入ったわけなのです。その場合は、全生徒と会うのです。1年生から6年生まで、それをずっとその期間とおしてやると、その期間で20時間かな、1学年。20時間なのですけど、大体4回から5回会うのです。その中でプールを教えたり、いろいろな一緒に遊んだり、それをやって、例えば8月、9月の10日位終わ

ります。9月、10月までは覚えてくれているのです。プールのおじさん、プールの先生。ところがもう11月、12月になってくると、この子はプールの子だなと思えば、向こうがきょとんとして、これ誰かなという。それでプール、プールと言うとわかるという、そんな感じ。それを毎年ずっとやっていけば、それでこの生徒たちも覚えてくれる。それは1つのたまたまの話なんですけど。だからそういう形で、やはり我々を含めた一般の大人が、学校に対して積極的にアプローチするという機会をできるだけもってもらおうというのにも必要なのかなと。逆に学校側としては、そういう人たちに、いわば補助員の形で来てもらうというのはものすごくありがたいらしいのです、自分たちの手が楽になるので。そういう形で上手く入れるのだから、そういうのがたまたま市の広報の応募があったものですから、前から興味があったので、それで手を挙げて募集やったのです。そのへんを一般の大人も機会を持って、そういう接触すれば、やはり自分の顔を売るとか、そういうことでもいいですから。そういう機会をみなさんに、高齢者でもできることはありますから、そういうのに積極的に関わっていこうというような運動というか、あってもいいかなというふうに、私の経験からですけども。

○荒川議長 プールなどだったら、わりと密な接触ありますから。

○杉本委員 そうですね。接触はかなりあります。

○荒川議長 部活動というか、小学校ですから部活動というかクラブ活動ですけど、そういうところで常時学校へ出入りしている方もいますよね。お茶を教えたり、ああいうのだと位置づけはクラブにある場合もあるし、中休みみたいにやるのもありますけど、お手玉やったり、おはじきやったりとか、いろいろな。小学校は20分くらい休みがありますから、来て遊んで、また授業に戻っていく。そういうの常時しているところなど、今のような似た感じですか。そういうのをいっぱい取り入れて、顔を覚えてもらう。誰だかわからなければ、親は当然挨拶しないわけですから、時々プールの補助員の先生ということと流す。地道な積み上げをしないと子どもの安全は守れないということですよ。

○杉本委員 子どもが1人思い出してくれると、その近くの仲間の子もたちが、あの先生かという形で思い出してくれる。その繰り返しになるのですかね。学校としては手薄になっている人材、そういう機会を一般の市民がそれに応じていけるような、何かそういう仕組みとか、あればなど感じます。プールの指導員というのは、別に特殊能力何もないのです。本当はプールサイドに立って安全監視が、まず大事なのです。だから誰でもできるのです、基本は。泳げなくてもいいのです。泳ぎとか、それは先生が授業ですから、基本は先生がやるわけですから。そんな高いレベルは、監視員がいるだけでも全然違いますから。それも全校人材がいなくて苦労しているのです、今は。だから各校1人いないです。無理矢理呼んでいますよね、学校の研修生とか、大学生とか。但し毎日来てくれませんから。そういう人材確保、広げていったほうがいいのではないかなという気はします。自分の報告ばかりですみません。

○荒川議長 顔を覚えてもらおうと思っても、何かの機会がないと覚えられませんよね。そういうのを学校に言うには、人材を、守ってくれる層が、守ってくれる人の層を広げるには、学校なのでそういう努力は必要です。いい指摘です、社会教育論とか、声の連携。大月さん、ほかに何かありますか。

○大月副議長 挨拶の話が出ていますけど、市役所で本庁がやると来たときに職員の人皆さん、おはようございますとか、こんにちとはとか、ほとんど私の知っている限りでは、私の顔が広いからなんですけど、100%実施しています。素晴らしいことになったなあと思っています。それを例えば出先機関、例えば公民館とか、市の出先機関もやらなければいけないと思うのです。やはり公民館とか、市民センターというのは、やはり街の顔のところにあるので、そういう人たちが地域の住民がたくさん出入りしていますので、そういう声掛けをやれば、中の職員が声掛けしてしまえば、訪れる人も声掛けるし、また子ども児童館などもありますので、そういう光景というのは、子どもが見ていますので、だか

らすごく大事なことだと思っています。挨拶というのを学校だけに任せるのではなく、あるいは地域住民だけではなくて、やはり1番大事なのは家庭です。家庭で挨拶を親がやらなければ、子どもはやらなくなってしまうので、なかなか朝起きておはようとか、なかなか返してこないと思うのですが、1つのことは、例えば何かをやってもらったときに、必ずありがとうとか、そういう何から何まで挨拶しなくても1つのことを。我が家ではよく話をするのですが、週末家へ大勢集まってご飯食べるのですが、狭いところで大勢でご飯食べるときに、例えばお醤油を取るのにも回っていったら取れませんので、それは誰でもいいのです。親でも孫でも私でも誰でもいいから捕まえて、それ取ってと取ってもらったときは、必ず挨拶する。挨拶というか、サンキューとか、ありがとうとか、なんでもいいのですが、そういう習慣をやっていて、私が頼んで何も言わないと何て言うのと言われてしまいます。いけねと思って、ありがとうとかやりますけど、たったそれだけです。普段来たとき、ただいまと学校から家に帰ってくるのですが、ただいまと言ってきますけど、すぐ行ってきますと飛び出てしまいますけど、たったそれだけのこと。ありがとう、サンキューとか、そんなことだけでも、私は家庭でできると思うので、学校行っているときにそういうことを学校の中でも、ありがとうやサンキューでもなんでもいいからやってくださいと。サンキュー運動ではないですけど、そんな形をよく話します。家庭です。家庭の親がやらないと、しつけできないと思うのです。いつもそんな話はしています。いくらかっこいいこと言っても、親がというか、大人がやらなければ子どももやらないです。二小のさっき言った、標語いくら掲げても、そんなものはお題目になってしまいますので、実践的にやらなければいけないことなのです。市役所の今やっていることを、もっともっと東大和市全体に広めるような、子育て日本一だけではなくて、挨拶日本一のそんな市にしてもらいたいなと、私はそう思います。広報でもなんでもいから、そういう挨拶運動など問いかけしてやれるような形、そんなの望みたいと、私は思います。

○森脇委員 今、思ったのですが、私は多分外で知っている方にしか挨拶していないので、大人同士で会った時に挨拶など全然してなくて、そうすると例えば子どもたちが通っているときに、全然知らない大人同士が挨拶をしていたら、ああ挨拶するものなんだと思うのではないかと。だから子ども相手もそうなのですが、本当に挨拶させようと思ったら、知らない人にでも挨拶しましょうということを、市全体でやっていくとか、そういうふうにしていくと雰囲気変わっていくかもしれませんと思いました。

○大月副議長 そうですね、市役所訪れて全然知らない人すれ違ったとき、挨拶してきますよ、私など、こんにちとはとか。市の職員ではなくても声掛けてしまいます。私いつも自分の地域では、いつも自転車でお使い行ったり、いろいろなところ走り回っているので、必ず声掛けていきます。よく声を掛けられるのですが、自分として全然、この人全然わからない人いっぱいいます。自分の孫のママのお友だちとか、向こうは知っていても私は知らないし、それから過去の役員の青少対やった時に辞めてしまって、しばらく経って向こうは覚えていますけど、私はわからない人いっぱいいて、道を歩いていまして、こんにちとはと言われて、こんにちとは言うから、こんにちとは言って、今お前のお友だちだろと言うと、私知らない、あなたでしょうと言われるのですが、どちらに挨拶されたのかわからないけどという人いっぱいいます。だから挨拶していれば、言われたら知っている人だなと思うから、知らなくてもこんにちとはやりますけども。そういうことの積み重ねが大事ななと思います。

○荒川議長 大月さんの顔が覚えられているのです。さっきの話を続きになりますけど、これ民生委員の各団体の企画書。こういう文書を学校毎に配ったらどうですかと、プールのおじさんも入るわけですよ、この中に。こうしたら安全ですよ。だって顔がわれているのだから。こんなのを例として学校で努力すべきことなのです、これ。教育委員会じゃなくてね。すみません。途中で。

○大月副議長 ロンドスイミングスクールなど行くと、やはりコーチの名前、あるいは指導員の、インストラクターとかそういう名前、あるいはクリーンさんですか、ああいう人のを掲げてありますよね。あれすごい大事です。何とかコーチだ、何とかコーチだと、自分の教わった人を指してますよね。これまさしく。すごい大事なことです。確かに名前だけだとわからないから、顔入りは、変なのに使われてしまうと困りますけど、大事です。

○荒川議長 外池先生何かありますか。別のことで。

○外池委員 そうですね、今もう割り切っていて、子どもから挨拶してくるということは全然期待しないようにしているの。してくる子もいるし、してこないからどうのとかいうのはあまり感じないようにしているのですよ。それによって何か差別意識というかな、同じような取り扱いをね、なんていうのもあるし、評価したのではね。だから子どもというのはもともと、知らない大人の人に対してはね、そういうものだというふうに思っていますので、期待はしない。大人同士だって知らない人は結局成人するとそうですよね。例えばホテルとか旅館とか行きますと朝早くお風呂に入ると、入ってくるのに挨拶してくれる人がいるのですよ。おはようございますとかいってね。それはとても気持ちのいいことですよね。ですからその状況にあってそれぞれ判断するので。私、例えば自分の家庭でもね、朝起きてお互いに挨拶しないのですよ。そういう人って少ないですか。おはようぐらい言うでしょ。それが言わないのですよ、相手も言わない。そう言わない家庭に私も育っちゃったから、やっぱり言ったほうがいいのでしょうね。

○大月副議長 暗黙のうちに了解になっているのではないのですかね。

○外池委員 わざわざ言わなくてもという気持ちがね、こういう家って少ないのではないかな。

○柳澤委員 私も言わないよ。

○外池委員 目と目が合っただけ、言葉発しないというのは、もうどうですか、家で。

○國森係長 言いますね、朝は。子どももおはようって。

○大月副議長 子どもがいたらやると思いますね、子どもがいないとちょっとやらない。

○外池委員 していないですね、それは気になっています。

○荒川議長 奥さんに一日3回以上愛しているよと言わないと離婚される、そんなことはありえない。

○外池委員 ちょっと今日これはなかなかおいしいねとかね、そういうの必要でしょうね。すまないねとか、ありがとうとか。私あまり言わないほうだから。

○杉本委員 私もそうですよ。たまにかみさんが先寝る時あるじゃないか。おやすみと言っていくわけですね。こちら何かテレビ見るなり、新聞、本読むなり、うんで終わりなのです。顔見て言ってくれよとか言うのです。確かにそうだなと。心がけようと思う気はあるのだけでも、実行できずに。

○外池委員 私も寝る時も先に寝るほうが多いから、黙って2階に行っちゃうのですよ。それよくないね。一言言って、先に行くよとか。

○杉本委員 そういうことが家庭ですからね。そういう中で声掛けというの心がけましょう。

○外池委員 子どもに対してはね、本当に誰があいさつしたとか、しないと、そうすべきだということ全然考えないようにしている。考えないようにしている。それどうなんだろう。

○荒川議長 学校連絡協議会なんかで行くとね、外で挨拶していますかうちの子はと必ず聞きますよね。だからやっぱりしてほしいのですよ、学校としてはね。こっちは地域住民として行っていますから、挨拶しないけど、ただ悪いことはしていないよというだけで、そういう意識はあるのですね。実際指導していくかどうかは、今の社会難しいから、担任だってどう指導しているのだろうってこっちだってわからないです。だから現地行って聞いてみる必要ありますよね。挨拶しちゃダメという人だって

いるかもしれないですよ、中にはね。危ないから今。

○**杉本委員** 枝葉の話になるのですが、昨日テレビで昼間見ている、マンションに住民の中で、例えばこの音がうるさいとかね、そういうことが直接本人に言えない。隣同士の接触、交渉を持ちやいけないというというルールがある、マンションに。それで管理人を通して聞いてみました。挨拶はしなきゃいけない。そういうようなことをコメンテーターとか出ている人が言っていましたけどね、若い人でしたけど。そういうこともあるのだな、挨拶禁止。隣同士でも、引っ越ししてきた時に、今度引っ越ししてきました何々ですという、これも禁止。本当かなと最初思いましたけどね、そういう風潮は風潮としてあるのはあるのです。だからそういうところで育つ子どもというのはどうなるのかなということを感じたり、ちょっと横道それましたけどそんな感じ。

○**外池委員** これはもともと松戸市の事件が発端なものですから、これをどんなふうにもこの場でまとめていくのか、難しいですよ、あれが発端だったと思うのですよ。普段信頼した人たちが事件に巻き込まれてしまい、現状をどう考えるのかということ考えると難しい。

○**杉本委員** 我々ここにいる人数だけで何か起こそうとアクションしても数が知れています。それをどうほかの大人に広げていくかといったことやろうと決めたことがあれば、そのへんも含めてここだけで、この人数が一人だけがやっても、力は少ない、及ばないことがありますから、それを、よしこれだと方針を決めた時に、どうやって広めていくかということも考えていかないと、例えば金山さんみたいな民生委員とかそういうのやられる方、その委員をやっている人、委員は一生懸命やっておられている。その運動がほかの人たちに広がらない。そういうこともあるかもしれない。やる内容によっては広げちゃいけないところもあるかもしれないし、そのへんここで会議していろいろテーマで考えていくことを一般にどう広げていくか、広めていくか。やる、やらないはその人たちの受け取り方ですけども、そういう外部に向けた発信もあっていいかなと思うのですけど。それは教育委員としてはやりすぎに思うかな。

○**荒川議長** 部署、部署でこういうことをしたらどうですかと提言すればいいのですよね。森脇さんほかのことでも結構ですから、何か気付いたこと。

○**森脇委員** あのちょっと違う、ずれてしまうかもしれないのですが、先ほど挨拶をする子どもとしない子どもといった時に思いだしたのですが、放課後子ども教室を受け持ったことがありまして、その時にすごく挨拶してくる子とか、すごくこちらに対して甘えてくる子とか、そういう子は割と問題ある子が多かったなというの、ちょっと思い出しました。必要以上に知らない大人に甘えてくる、そういう子はちょっとだけお母さん見てああとすることがあったりだとか、何かちょっと違う話なんですけども、そんなことがあると思い出しました。放課後子ども教室をやっていたおかげで、私も外で声をかけてもらうことが結構多いのですが、知らないお母さんから声かけてもらって、子どもがお世話になっていますと、そんなふうに使われたこともありました。

○**大月副議長** 向こうも知ってるわけですね。

○**荒川議長** 学校の中で担任というのは普通子どもと一番密接な間柄なわけですよね。その間柄の中で、子どもが訴えかけたり、例えばお父さんが暴力振るうのですよと訴えかけてくる。これは正常ルートなんだ、正規のある意味ではルートなんだ。問題はいじめとか虐待とかで、担任に訴えてこない子と言うのもいるわけですよね。いろいろな理由があるのでしょうけどね、そうするとどこかにすがりつくのは、養護の先生がよく挙げられますよね。それから図書館の今小学校には司書いませんからね、図書館の整理なんかをしてくれる、パートの方がいますよね、ああいう人のところにいるのですよ。擦り寄って、何かを訴えかけそうな気持だけある。ああいう子のルートというのを学校が大事にしているかどうかと

ということが言えるのですね。図書館で司書代理みたいなね、ああいう人たちというのは、ものすごくそういう今の話なんですよ、情報持ってるのですよ。それがちゃんとどこか学校にフィードバックされているかどうかなんですよ。

○森脇委員 なかなか本心は難しいのかもしれないけど、私も放課後教室の時には先生と話が出来ませんでした。放課後教室はちょっと管轄が違うので、その話はしないでくださいと学校から言われるので、あったことを先生に報告というのは一切できない感じでした。私は民生委員だったので主任児童員のほうに話を持っていくことが割と簡単にできましたので、それはあります。どうなったかはちょっと聞いていないのですけど。

○荒川議長 そのへんはちょっと組織が違うからね、学校に繋げないでしょ。だからプールの方だったら副校長さんとか、何かちょっと言いたいことありそうだよって伝える。図書館の学校にはりついてる人だったらそれを伝えるとか、それを学校がきちんと収集しているかどうかということは結構大事なのですよね。担任からは通ずるはずなんだけど、必ずしも通じないでしょ。それがいじめとか虐待されてるお子さんというのは誰かに訴えているのですよ。あとでわかる。何か事件があってからわかるのですね。そうすると交通養護の方に訴える子どもだっていないわけじゃない。いつも遊んでくれるあの大月のおじさんだって来るかもしれない。これわからない、子どもの選択だから。それを学校がきちんと吸い上げるといふ努力をしないと、事件が起きてから実は外で泣いていたのだよというの後でわかるのですよね。これ学校のシステムで吸い上げる努力をしないとだめですよ。

○杉本委員 そういう意味で言えば期間限定ですけど、プールの担任の先生もそうですけど、プールの時みんなパンツ以外裸になりますから、見えやすいですよ、あざがあるとか、ケガしているとか、そういうのは見つけやすい環境です。ただし、その期間外はダメですけど。そういうところで、たまたま私の受け持ちではそういう子はいなかったですけども、中に本当にこうすがり、しがみついてくるような子、水が怖くてでなくて、甘えていう子やっぱり2、3人いますし、そういう時にさみしいのかなど。それを先生になかなか言いづらい点もありますけどね、気が付けば今度はやってみようかなと思います。虐待に繋がる防止のケガとかそれについては、プールの授業は絶好のチャンスですよ。発見するのに、水着一つになりますからね。

○荒川議長 金山さん、ほかのことでも結構ですから何かありますか。

○金山委員 私、今スクールガードやっていて、毎朝子どもたちが私に寄ってきていろいろおはようとかそれ以外で話をしてくれるのですけど、朝ね。今日はお母さんがどこどこまで仕事に行くとか、そういう家庭的なことまで話をしてくれる。だから今の小学生3年生とか、2年生、1年生の子たち、1年生なんか特にそうなんですけど、もう本当に自由奔放でなんでもしたりしてくるのですけどね。5、6年になるとそういう話はしないからね、びっくりします。ランドセル、家族でなかなかできないところ手を差し伸べようとすると、私は一人でやれるのですからいいですと必ずそう返ってきますし、もう本当に今の子どもはどこまで手を差し伸べていいのか、転んでも泣いてくる子が、転んだ膝をね、あれして泣いてくるのですけども、最初だけ抱きかかえて大丈夫だよと言ってあげたら、あと大丈夫よ何もなっていないから、何かあったら保健室行きなさいって教えるのですけど、本当に今の子どもはしっかりしていますね。1年生、2年生、3年生ぐらいですけど。3年生の男の子でこういうこと六小のことといったらいけないのかなと思うのですけど、社会教育委員だからいいのかなと思うのですけど、生活保護という言葉も知ってるし、3年生ですよ。だから自分が去年の9月に引っ越ししてきて、どこどこから引っ越ししてきて、どうしてどうしてお父さんとお母さんと離婚して、お兄ちゃん3人兄弟で、長男と自分はお母さんに来て、次男がお父さんのとこ行って、そういういろんな話をしてくれます。これ本当は

言ってはいけないことなんだろうとは思いますが、私も自分で黙って誰にも言わなかったのですが、今まで。でも先月ちょっと副校長先生にだけはそういう子どもがいるということ、私にそういう話していて。朝早くお母さんと遠く行く時には早く来るので7時半ごろにはもう来ているのです。そういう時なんか私のところ来て今日お母さんどこまで行ったとか、昨日お父さんのところ行って来たとか、そういうやっぱり話をしますね。だからさみしいのでしょうか、やっぱり自分一人で、どうなのかわからないですけどね。そういう話もしてくれるし、他の子どもも、そういう話してくれる子もいるしね、いろいろいっぱいいますからね。ただのおばさんでないので、本当に。

○荒川議長 結構学校でわからないことをまわりの人は知っている。

○金山委員 先生でない、誰でもない、友だちにも言えないようなことをちゃんと話してくれるのかなと思うと、これは辞められないなというね。やっぱり接してあげなきゃいけないのかなと。

○荒川議長 先生って指導が入りますからね、評価しますからね。周りは評価しませんから、だからわかりかし言ってくれているのですよ。

○金山委員 私のところでストップしてしゃべらないというそれも大切なことなのね。だから子どもたちもそういうつもりで来るだろうと思うのですが、やっぱり今の子ども本当にいろんなこと知っていますね、生活保護もらってる。離婚したとか、そういう言葉もみんな知ってるし、そして1年生がよく目立つのは、今の1年生は全部で朝早く来ても、10分しか休み時間じゃないときでも、1人、2人遊ばない子もいますけども、集団で遊ぶのですよね。みんな10人なら10人で鬼ごっこする。もうひっくりかえったり、どろんこになったり、もう雨の日でもやっているから、本当に元気ですよ。昔の子と考えられない。だからお母さんああいうことやってるの知っているのかな、見に来ればいいのになんて、びしょびしょになってもやっている。だからみんな洋服着替えさせて、洗って、体育着あるから、体育着着なさいなんて言って、教室入れることもありますけどね。本当に今の子どもはしっかりしていますね、1年生です。どこまでそういう自立心があるのかね、みんなしっかりしています。自分でやりますと言うもんね。

○荒川議長 いろんなことを知って、例えば学校へ連絡するというの難しいですよ。喋ったことみんなつつぬけになるのじゃ、子どもたち会話できないものね。

○金山委員 それもできないですしね。

○荒川議長 そこは学校との、どこまでしゃべるとか、言うけどしゃべらないとかね。それがないと言えないですよ。この間どこかの虐待なんかでも、学校側はしゃべらないのに、教育委員会が親に書類渡したでしょ。とんでもない話ですよ。あれ担任が副校長に話し、副校長は教頭にあげて、それからまた教育委員会にあげて、どこかで親に言っちゃったら、一番最初に聞いた担任なんか、立場なくなっちゃいますもんね。

○金山委員 なんかしゃべるのも、あまりできないというか、危ないですね。どこまでついていくのかななんて思うと。

○荒川議長 お父さんにしゃべっちゃったら仕返しされるの分かりきってることだよ。

○外池委員 なんかその事件の親が強い口調で恫喝、脅し、それで役所の人がついに、そういう場合もあるわけだし、やっぱり私子どもの命を守るということに焦点化して、交通安全とかプール指導とか命に関わってますよね。そういう人に対して、感謝の気持ちを育てる。それがどの程度出てくることかどうかはね、あまり私は気にしませんけれども、そういうことが大事なことです。これはもう私たちを守ってくれる人たちなんだなというね、そのところに焦点化していかないとなかなか絞きれない、拡散しちゃってねという気持ちはあります。私たちは命を守るということは、自分自身の大事なことです。

それをみんなが支えてくれるのだというそういう社会、それをやっぱり目指していこうねとか、そういうふうにしていくのが、ちょっと一つの観点かなと思いますね。あいさつとか表面的なことではなくて、そういう感謝の気持ちを育てれば、自然に出てきますよ、子どもたちはね、それを信頼していきたいと。

○荒川議長 子どものほうにはそういうことでしょうか。問題は周りの親がどうするかということがあるのですね。子どもを育てる、周りは危なくてしょうがないというのが。

○大月副議長 さっき金山さん言われたその、子どもが生活保護を受けてるとかいう話ですね。今の子というのは親とか大人の会話よく聞いているのですね、聞いてますね。うちも小学校2年生の孫がいるのですが、親の言ってることはしっかり聞いていますね。それで聞いていないと思って何か言うと、この間言ってたじゃないか、言ってたよねという話で、聞いているのだな。聞いていない、違うことやってるから安心かなと思うと、ちゃんと聞いていますよ、耳は入ってますね。今の子はしっかりしているなというのはそこですね。

○金山委員 私たちそんな生活保護なんて言葉言えなかったじゃないですか、昔はね。

○大月副議長 たぶん親がそれをもって暮らしている話、あるいは見たりしていることを理解していると思うのですね。

○金山委員 今はもうタフなのかな、全部に、それが平気なのかしら。

○大月副議長 普通は子どもの前であまり言わないようにするのだろうけど、その親のあれですよ。オープンな家だったらやっちゃうよね。こんなので大変なんだからとか言ってるかもしれないですね、子どもにね。だから買えないよとかね、我慢しなさいとか、そんな話が出ているのではないかと思います。

○荒川議長 柳澤さんほかにも何もありません。

○柳澤委員 私は特に気になるのですが、通学、特に帰り道、学校の帰り道でふざけているのですよね。すごい危険だなと感じるのですが、ああいう夢中になってるときというのは外のことはわからないからね、ちょっとひやひやしながら見てた。これはまあどうしたらいいものかね、危険というのは近いなという。

○外池委員 車を運転しててもわかりますね。飛び出してきたり、ふざけたりとか、本当に通学の時間帯はできるだけ避けるようにしてもらって、車はね。本当に危ない。小学校の低学年なんかはそうです。高校生の自転車とかね。本当に危ない。

○荒川議長 朝は緊張していますよね。

○杉本委員 登校の時はまだいいです。下校時ね。

○外池委員 あんなことしているのが楽しいのだろうな、本心はそう思いますけどね。

○杉本委員 万が一のね、本当によけきれないときもありますからね、最近自転車が多いし。

○外池委員 押したりなんかしているのですよね。

○柳澤委員 ああいうのは教育とか指導とか、そういうので何度も何度もいうしかないですよ。

○荒川議長 子どもって飛ばされると50m飛びますね。1、2年生、50mってすごいですよ。それでめちゃくちゃ暴走しているわけじゃない。私も2年生の子がね、ビー玉落っことしたの、追っかけてって道路に出て50m飛ばされた、即死ですけどね。かわいそう、それだってガードレールはあるのですよ。それでも飛び出る。ビー玉ぴょんぴょんぴょんって、防ぎようがないといたら校長いないからあれですけど、あれは運転手だって気の毒だよ。血なんか全然出ていないです、きれいな顔して。学校でいくら言ってもあるのですよね。

○柳澤委員 うちの孫が今度小学校なんだけど、スマホというのは今禁止なのですかね。

- 國森係長 たぶん禁止だと思いますね。
- 柳澤委員 それを認めるような動きがあるでしょ。利用者の立場があるかね、話し合ってるみたい。
- 荒川議長 中学生も持っていないのですかね。
- 森脇委員 学校では持っていないと思います。安全とかそういうこと考えているのですかね。帰り道なんてしてそうですよね、歩きながら。学校の中では禁止されていても。
- 荒川議長 今朝の新聞で防犯ブザーなんかでも、GPSで子どもの位置がわかるという小さなこんなの、持たせたらどうかなんて出ていましたね。どっちがいいかなんて校内両方なんてね。これは防犯ブザーみたいなものだから、携帯みたいな機能はないのかどうか知りたいね。どこにいるかつかめるんですって、親が。
- 金山委員 防犯ブザーは1年生は全部入学したらもらうでしょ。小学校、ブザー鳴ってる。
- 荒川議長 希望者、ブザーは音だけね。
- 金山委員 そう音だけが出るあれは持ってる。小学校1年生はもらってるでしょ。1年生だけだと思うのだけど。
- 杉本委員 毎年1年生だったら全員がもちますよね。いつかは。
- 金山委員 黄色い帽子とブザーと。そして今の3000円出してカードのあれになったのでしょ、希望者だけだね。
- 荒川議長 あれの名前なんていうのでしたっけ。
- 金山委員 何度か聞いたのだけど覚えられない。何度か教えてくれたけど忘れちゃった。今の子どもたち、あれ持ってる子と持っていない子といっても別に、昔だったら、自分だけ持っていないとかわいそうだなとか、昔はそう思ったこともあったけど、今の子そういうこと考えないですね。全然なくても持たない子と持ってる子を見ると、やっぱり低学年のほうが持ってるのじゃないかな。5、6年生になるともう持っていない子も多いですもんね。
- 荒川議長 どこを通過したというのがわかる機能ですよ、あれは。校出た、学校入ったとかね。GPSがついてるとずっとどこまでも追いかけるのでしょけど、あんたここで寄り道してたでしょというのがわかるでしょ、あれ。浮気調査に使うやつですよ。今私の手元にあるのが、八小のところの見守りネットニュースというのが出て毎月よこすのですけども、これで結構参考になるものがありますので、ちょっとまわしてざっと拾い読みしてみてください。やっぱり学校と地域で連携して子どもを守りましょうという活動ですよ。
- 森脇委員 すみません、さっきの教育委員会が渡してしまったというお話なんですけども、私あの話聞いた時に、先生たちとそれから教育委員会のその人たちの安全をちょっとすごく気になってしまって、やっぱり面倒くさいから渡しちゃったという程度ではなくて、ものすごい恐ろしい思いをしたのだらうなと思うのですね。それで、そういう人たちの安全というか、例えばものすごいひどい親が学校に来たときに、先生方の安全もやっぱりおびやかされるわけだと思うのですけれども、そのあたりというのは対策は何か、学校によっては弁護士が付いているとか、そういうところもあるらしいですけども、東大和はちょっとそういう話を聞いたことがないので、どういうふうなシステムというか、気になったのですけども。
- 杉本委員 スクールロイヤールとかいいますよね。学校もそこまではなかなか、全市で東大和に限らず整えるというのは難しいことで、あとは大声でわめいているわけですよ、暴力をふるうというわけではない、大声で威圧してくるのですよ。そういう人たちというのは大体、文句言う人。こないだの事件もそうですよね。窓口で大声でわめく、それが嫌になって威圧感、脅迫感というのですかね、それでつ

い渡したという情報。そういうことがよくある。そういう大声で威圧するような、一種脅迫的なことをいかに防ぐか、はねつけるかというか、それが各市あるのでしょ、いろいろ窓口市でも。

○**國森係長** 研修をやっていますね、市の職員だと。不当要求防止研修、まあクレーマーですよ。例えばそういう大声を出す人が来たら、職員大勢で対応するとか、簡単な話だとそういうことですけど、そういう詳しい研修が、毎年行われていますね、職員はですね、それは。学校の先生まで入るかというそれは入っていなかったと思うんですけどね。でも、学校の職員でも、そういった研修というのはやっぱりあるんじゃないかなと思うんですけど、ちょっと詳しいところ把握できていないんですけど。

○**荒川議長** この間の事件は教育委員会ですよ。

○**國森係長** 教育委員会であればそういう。

○**荒川議長** 学校じゃないのです。役所の人間が渡しちゃったのね。あれは大声を出して、手は出さない。要するに威圧するだけ、教育委員会の人間が威圧されたぐらいで渡すというのは。

○**國森係長** 考えられないですね。

○**荒川議長** 殴られたら即警察だから。声だけは出すのですよ、窓口へ来たって。昔は某団体なんかがある有名だったけど今はしてないでしょ。ちょっと似たようなエセみたいのはいるかもしれないけど、危ないと、威圧しただけだって、業務妨害とか、脅迫罪とか、強要罪とか言われますから、あまり出さない。この間の子どもの親なんていうのは、その系統じゃない、純粋な親なんです。それに脅かされたから渡すといったら論外ですよ。あと一方の法的に訴えるぞというのはね、発言の中にいっぱいあるわけですよ。あれは法律の専門家がいないと、やっぱり強く言うと一般の人はもう管理職あげちゃえば大体、後ろへ引っ込みますけど、校長は引っ込められないと、受けてたたくちゃいけないから、心配だから教育委員会にどうしたって連絡しますよ。教育委員会が法的に間違っているかよくわからなければ、付け入れられちゃいますからね。そうするとやっぱりスクールロイヤーでいつでも連絡できる弁護士の手当てが必要なのですよ。だけど都心部でいくつかの区はそれを取り入れてますよ、結構困難な人がいますからね。ただこういう地方までそれを困ったらすぐ連絡くれという制度は、武蔵野とかああいうところあるかもしれませんが、こっちのほうはないですよ。実はそれが一番管理職はほしいですよ。殴られれば警察だから簡単なの。法的に訴えるぞ、訴えるぞってやられるというのが、素人判断では非常に厳しいので、制度を整えないと間違えちゃうところはあるでしょうね。

○**國森係長** 例えば東大和市の場合だと、正直そういう大声出す人、やっぱり窓口あるから必ずいます。よく来ます。そういう場合、文書課のほうで、法規係があるので、その文書課、市と弁護士さん年間の契約やっぱりしているのですよ。だから顧問弁護士にすぐ話をするというシステムは東大和市はあります。

○**荒川議長** それが東大和市というのが学校の校長とかが入ってるかどうかそこなんです。基本的には無いのですよ、たぶん無いのですよ。

○**國森係長** 教育委員会からであれば弁護士に相談できますね。

○**荒川議長** そのへん校長としては欲しいよね、聞きたい時あるもの。都の身分持っていますからね。純粋な市の身分ではないから。半々みたいな身分ですからね。

○**杉本委員** 昔一般の仕事で営業的なもので、訪問営業という仕事をやってたわけなのですよ。そういう時にクレーム、頻発しますよね、場合によっては。そういう時に訴えるぞとかね、必ず言ってきますけども、僕の経験ですけど、ああいいですよと、訴えてくださいと、こちらもそれに対応して手打ちますから、正式な文章で告訴状作ってくれというふうにバーンと返すのですよ。そうするとそこで止まっちゃいます。現実に訴えるアクションまで、やってきたこと1件もないですね。言い方は悪いのですけ

れども、苦情を受ける側も自信もって、これ言い方悪いけど一過性のものだ。一日、二日、三日、一週間空けばもう温度下がってくるというぐらいの気持ちで、まあまあという感じのまともにしない。そういう対応、場合によりますけどみんながみんなそうとは限りませんが、中身によっては聞いて対応しなければいけないこともありますけど、そうでない、これはどのような場合は、もう毅然と何言ってるんですかという形で言っても、それ以上に大きくなることはないのではないかと考えています。だから受けるほうが自信もって、受けていいのじゃないかと。どうしても手に余る時は弁護士とかね、そういうルートに回すことも必要でしょうけど、物を壊したとか、器物損壊とか、あるいは傷害だとか、そういうことに繋がらない場合も一般のクレーマー的なものは、そこで強くガーンとはねつければ、そのあとあまり言ってこないというのは僕の経験です。一般の民間企業の。市となると市の看板がありますから、変なことやると、市が例えばメディアに訴えたとかね、そう言われると、市のほうはちょっと弱い面があるでしょうけど、それもメディアもまともに受け取るケースは少ないと思って対応するそれしかないですけどね。

○荒川議長 窓口に来るお客さんも年中来ている人がいるね、大体どの市も何人が常時来ている。

○國森係長 いろいろなところで怒鳴っている方いますね。

○大月副議長 私なんか市にブラックリスト載ってるじゃないかと思えます。あっちこっちいろいろお願いをしていますのでね。クレーマーじゃないですけどね。私もサラリーマンでしたけど、物を開発して、製造して、販売する会社でしたから、物を大量に身に着けるものの商品ですから、故障とかなると必ずね、そういうお客様相談センターへ全国からわぁと。必ず今どこもみんなそうですよね、録音して、対応していましたけどね。法務部があったりして弁護士に相談とか、いろんな複雑なやつは大変な、よく聞かされましたけど。

○荒川議長 学校は小学校6年お付き合いしなきゃいけませんからね。兄弟がいればもっと10年とか、結構厄介ですよ。訴訟にいざなるとなったら、教育委員会を訴えれば別ですけども、担任の教員個人訴えるのでしょ。まあ両方訴えるのでしょ。担任訴えたら担任が対応しなくちゃいけないですよ。役所もたぶんそうなんだろうと思うけど、個人ですよ。あれは厄介ですよ。だから弁護士費用、訴訟費用、担任が払うわけですよ。それを保険で当然対応しますよね、訴訟保険とか入らされる。今の先生方大変なですよ。いざとなれば自分の保険で弁護士雇わなくちゃいけない。そこまで教育委員会もってくれませんからね。教育委員会と両方、たぶん両方訴えるのですよ。あれだから教員をかばってやるというのがなかなかやさしくはないのですよ。訴えられた場合ですよ。

○國森係長 実際職員も、私も入っています。個人で訴訟の保険、そういうのがやっぱりあって、個人あてに訴訟起こされるので、そういう保険は自分で入ります。

○荒川議長 あれ行政でもってほしいよね。仕事しているのだから、仕事でないことで訴えるのだったらしょうがないけど、どうも腑に落ちないのだよ。

○杉本委員 そういう窓口でない部署の人はいない。

○國森係長 だいたい入るのは係長以上ですね。でも普通の職員も入ってますよね。部署によっては税とかそっち系の部署はよく窓口が荒れていますよ。どうしようもならない、どうにもならないような話をやっぱりいっぱい受けますね。制度上の話とか。話聞くのが仕事だと思いますので。

○金山委員 これは学校がやっているのですか。

○荒川議長 両方でやっているのでしょうね、地域の人と学校で。

○大月副議長 今まわってるこれにも書いてありますけれども、犬の散歩のワンワンパトロールですかね、東大和もワンワンパトロールありますよね。私も犬飼っている時にワンワンパトロールに入って、

腕章もらってここに黄色いのを付けて、散歩していましたが、今犬が亡くなっちゃったので、どうなったかわからないのですが、たぶんあるんじゃないかな。消えちゃったのですかね。腕章でした。犬じゃない、人間がここに。腕でもどこでもいいのですが、今ちょっとどうなっているか。ここにも書いてありますけど、すごく良い、今犬飼っている人市内に多いですからね。犬の散歩すごいですから、夕方、朝夕はすごいで、阻止力はあると思うのですね。今ちょっとわからないですね、実態がね。小平は今実施していますけどね、調べる必要があると思うのですね。

○金山委員 学校と地域の人と一緒にあってこういうものを出す。そういうのがあるとよくわかるのだけど、学校だよりじゃなくて、青少対はこういう青少対だけのあれじゃなくてね、いいですね。だからそれがあると私たちもなんかわかるのだけど、全然わからないというか。

○荒川議長 八小へ行って、校長さんと代表のかたと話を聞きたいということなら、教育委員会に間に入ってもらって。私の元いた学校ですから。参考になるのだったら、一回。

○金山委員 そうなのがあつてね。

○荒川議長 この女の人の名前は社会教育委員ですから、いつも顔を出す。

○金山委員 私たちは小学校の区域だから小学校でやっているけれども、三中とか、中学校の様子は全然わからない。今も、三小とか五小とか、三中学校区域は、関わっていないと全然わからない。上仲原公園でボヤがありましたよと言われて、飛んで行き、三中の生徒かもしれませんよと、そういう情報がくるから、どうしても行かないといけないから飛んで行っても、先生方がいて、もう収まりましたよ。ちょうど交番があるから、帰りに交番に聞いて、トイレトペーパーが燃えて収まりましたよと。だからそういう情報がわからない。生徒に聞いてもわからない。学校でこういう話の説明ありましたと聞いたら、知らない。全然ない。火事だよと消防車が来ても、どこが火事かわからない。

○荒川議長 大月さんから火事の話聞いたけどあれ場所なんかの放送ありましたか。

○大月副議長 ないですね。夜11時過ぎでしたね。地元のサイレンもすぐ終わっちゃった。あとヘリコプターが取材に来ていましたね。私の近所もみんな側なんですけど知らない人が多くて。ヘリコプターが来たのを、笑い話なんですけど、タベ不可解なことがあったと。UFOが飛んできた、停止して下に向かってライトを照らしていたと。ヘリコプターで取材するのがUFOになっちゃった。私も火事は気がつかないですね。ちょうど日曜だったんで集まってご飯をたべて雑談していたところに北多摩西部消防署が警察グラウンドのところ引越してきたんで消防車とか救急車がたくさん通るから気にしないようにしていたんですけど、孫にメールが入りまして、近くだけ大丈夫って。ぱっとみたらお店が写っていて、それで飛んでいった。

○國森係長 実際、社会教育課の職員で消防団に入っている、石井なんですけれども彼は消防団で夜呼び出されて2時ぐらいに解散したと言っていたので11時から2時ぐらいの間だったらしいです。

○大月副議長 最近では大きい火事ですね。平屋が燃えてその天井から火がどんと広がってそれが3階に移っちゃたんですね。前の南側にあるビルの3階からいっちゃったんです。3軒燃えちゃいましたかね。大きい火事でしたね。不幸中の幸いで風がなかったんで、3軒で済んだんですけど、たぶん風があったらあの一帯全部燃えちゃったと思います。南街地区くっついてますから、風が吹いたら大変ですね。新潟かなんかの火災、海側に向かって燃えちゃったけどその傾向になっちゃいますね。南街地区ぜんぶ碁盤の目のようにまっすぐ道路がありまして全部二階建てが建ってますので、風がふいたらずうっといっちゃいますね。東大和の中で一番危険な地区ですね。地震だけが災害じゃないなと今回感じて火災に関しては気をつけようかな、と。今回まだどういう出火原因なのかまだわかりませんが。

○荒川議長 その他なんでも。

○**國森係長** 1件いいですか。先日の会議の後、先ほど冒頭に議長からご説明あったとおり、指導室のほうに話をさせていただいたんですけど、指導室からは3月・4月・5月ぐらいまでは厳しいかなという話をされたんですが、逆に指導室から言われたのは4月に学校と警察との連絡会があるので逆にそういうのに顔を出していただくとかそういうことはかまいませんと統括指導主事が仰ってましたので、ただその子どもの安全安心とどこまでその会議が関わるかというのが詳しく見えなかったので返事はしなかったのですけれども、そういうことがありました。

○**荒川議長** 次回の内容ですけれども4月から学校の話、今の見守りネットっていうのは小平8小なんですけど、8小地区子ども見守りネットワーク、代表は内田さんという方ですけれども、学校ごとにこれは組織されているんでしょうね。毎月送られてきて、読んでみると今回のテーマにに沿っている感じがしてこういうところに行って話を聞くのも悪くはないなと思うんですけども。とりあえずは教育委員会、学校、見守りネットワークの3つを勉強して、大体ほぼ終わるかなとおもうんですけども。とりあえずは次回4月学校も忙しそうですし、松村先生も。

○**國森係長** 4月に異動があるかもしれません。校長副校長がたぶん変わります。松村先生が校長先生でいたらやってくれると思います。

○**荒川議長** よそへ動く可能性がある。

○**國森係長** なんともいえないですね。

○**大月副議長** 先日青少対と一緒に今度の会議には出られるのでなかなか出られなくてご迷惑かけてるんですけども今度は出て話をさせてもらいますって言ってましたけどね。

○**國森係長** ちょっと心配で何度か聞いたんですけど、ほんとに大丈夫ですかって。

○**荒川議長** 警察との会はやめた方がいいと思う。あれはあれで内密のこともやるから。

○**大月副議長** 私は東大和警察の交番とふれあいの子の連絡会議の会員になってまして、年に3・4回なんですけど交番の警察と地域の安全の見守りについて話します。今はふりこめ詐欺が多いのでそのへんの話とあとは交通事故の話とかそういう話し合いはできるんで子どもの話もできなくはないですね。資料持ってきてくれるのは良いんですけども、白い自転車にあの格好で家に出入りしますので近所の人になにか事件ですかと聞かれてしまうんですけど。つながりはありますから話を聞けないことはないですね。

○**荒川議長** どうでしょうか。4月。松村先生も難しいし、教育委員会も忙しいし。異動があるとね。

○**金山委員** 異動がね。

○**荒川議長** 小平のこれ、行ってみますか。話はね、学校運営協議会とこれが一緒になっているようなんだよね。学校運営協議会っていうのは学校のもの、会長は社会教育委員の議長で顔を合わせたこともある、見守りネットワークは内田さん 私も挨拶をしたことはあるんですけどもお父さんが郵便局長で、郵便局長は代を継ぐんですかね。代々郵便局長だった。この人も地元密着型。校長も知らないわけじゃない。小平まではバスで行くようになると思うけどそれは大丈夫。

○**國森係長** それは大丈夫だと思います。

○**荒川議長** 話を聞いてみますかね。そういう関係でざっくばらんに話をしてもらえればいいので。相手のあることですから確定はできませんけど事務局を通してその会を設けてそのあとは2つ勉強して勉強会は終わりになります。そんなことで次回は勉強したいと思います。何かありますか。

○**手塚主事** すみません、私の方から来月の都市社連協の定期総会について。日付がですね、4月20日の土曜日午後1時からとなっております。欠席される場合は委任状を私に提出していただくこととなります。この場で出欠がわかれば教えていただきたいと思います。

(委員の出欠を確認)

○荒川議長 はい、ありがとうございました。それでは最後に副議長からまとめをお願いします。

○大月副議長 本当は学校の先生から話を聞く予定だったんですけども、あいさつを中心に話が出て有意義な会議だったと思います。あと次回は議長が言われたとおり小平の見守りネットワークですかね、こういう話を聞いて一連の勉強会を終えるわけですけども、長いスパンで話を聞いてきているのでたぶん前のことがどんどん忘れていってしまうのでみなさんも復習をしながらまとめてきていただくと良いと思います。

○荒川議長 ありがとうございました。それでは第11回東大和市社会教育委員会議事を終わります。